

株主メモ

》 株主優待制度のご案内

当社株式をご所有の株主の皆様へ、全国の当社店舗でご利用いただけます商品引換券を贈呈させていただきます。

所有株式数	当社商品引換券
100株以上1,000株未満	1,000円
1,000株以上5,000株未満	5,000円
5,000株以上	10,000円

さらに定時株主総会の招集通知に同封します専用ハガキによる応募抽選で、大相撲9月場所観席券(食事付、4名まで可)を5名の方に贈呈いたします。

》 株主メモ

決算期日	毎年2月末日
株主総会	1. 定時株主総会は、毎年5月に開催いたします。 2. 臨時株主総会は、必要あるときに随時開催いたします。
名義書換代理人	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同送付先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 本店および全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

注) UFJ信託銀行株式会社は、2005年10月1日付で三菱UFJ信託銀行株式会社に商号変更いたしました。

お知らせ

○株式関係のお手続き用紙のご請求について
株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。
TEL 0120-244-479 (本店証券代行部)
TEL 0120-684-479 (大阪証券代行部)
インターネットホームページ <http://www.tr.mufig.jp/daikou/>
なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

株主様の個人情報の利用目的等

当社は、株主様の円滑な権利行使および商法等の関係法令の定める業務遂行のため株主様の個人情報を提出いただき、利用させていただいております。株主様の個人情報の利用目的は以下の通りです。

- [1] 商法その他の関係法令に基づく権利の行使・義務の履行のため
- [2] 株主権行使の参考としていただくため当社の事業活動に関する情報等の提供のため
- [3] 各種法令に基づく所定の基準による株主のデータを作成する等、株主様情報の管理のため

株主様情報に関するお問合せにつきましては、当社経営企画室または名義書換代理人である三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部にてお受けいたしておりますので、お申し出ください。



Top Message

Shop Information

Topics

Financial Highlights

Financial Statements

Company Outline

Stock Information

point
第56期 中間事業報告書
2005.3.1~2005.8.31

株式会社 ポイント

〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目7番2号 八重洲三井ビルディング10階

URL <http://www.point.co.jp/>



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、
ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
第56期中間事業報告書をお届けするにあたり、
ひとことご挨拶を申し上げます。

株式会社 ポイント
代表取締役社長 黒田 博

当中間期も、当初計画を上回る高い成果を収めることができました。

当社は、2004年2月期を初年度とする中期経営計画に基づき、各種経営課題に取り組んでまいりました。

当中間期は、連結で売上高224億44百万円（前中間期比29.0%増）、経常利益46億10百万円（前中間期比38.5%増）、売上総利益率61.4%（前中間期60.6%）と伸ばすことができました。

これは、売上の面では、当社の3本柱であるローリーズファーム、グローバルワーク、そしてジーナシスが大変好調に推移していることと、強化を図っているレイジブルーやハレも、追いかける形で規模を拡大していることによるものです。また、物流などのインフラの整備ができたことが、商品回転率を半期ベースで約5.8回転と向上させ、高い収益性の実現に寄与しました。

数字的にも、内容的にも満足のできるものになったと考えております。

次期中期経営計画を成功に導くための各種経営課題に対し、真摯に取り組ましました。

当期は、次期中期経営計画を成功に導くための架け橋の年と位置付けられますが、そのためにこの半年間、当社が取り組んできたことの一つとして、顧客満足の向上があります。

当社はSPA（製造小売り）化を推進してきたわけですが、それはつまりブランド戦略であり、ブランドロイヤリティをいかに醸成し成長させていくかということでもあります。さらに、ブランドロイヤリティを高めるものは、顧客満足（CS）であり従業員満足（ES）です。ESをとまなわないCSはあり得ません。ブランドで表現したいものを全社で共有し、それをお客様にご提供することで、ご満足いただく…こうしたコミュニケーションの輪が必要不可欠です。具体的には、店長会議で開催したファッションショーの各店舗への動画配信、社内報のイントラネットでの配信、本部と全国の店舗を繋ぐテレビ会議の活用など、ITを活用した社内コミュニケーションの改善を行い、ブランドロイヤリティの向上を目指しました。

そのほか、経営のスピード化にも取り組みました。2005年6月に組織を変更し、執行役員制度を設けました。これは、責任の明確化・意思決定の迅速化を意図したものです。また出店規模の増加を見込んだ物流機能のさらなる強化も進めているところです。

一方課題として認識しておりますのは、ローリーズファーム、グローバルワークに続く100億円規模のブランドがまだ育っていないということです。今後は成功事例の横展開を行い、後に続くブランドの規模の拡大を図っていきたく考えています。

少子高齢化に向けた私たちの次の舞台は、大人のカジュアルです。

わからないものは作らない、着たいものを作っていくという考え方が当社のビジネスの基本です。当社のブランドマネジャーは35～40代が中心ですが、この世代の大人の普段着というものがなく感じています。そこで、30代後半～50代をカバーできるファッションを実現したいと考えています。つまり大人のカジュアルです。関東であれば、伊豆や箱根へご夫婦でワンデイトリップをと思ったとき、百貨店でも、GMSでもなく、もっと気楽にファッションを楽しめるブランドが欲しいと思いました。イメージは、ブルーノートジャズ。ジャンパーよりジャケットを。その切り口で来

春以降、主に郊外のショッピングモールなどで4～5店舗を出店したいと考えております。まずはこの下期に、グローバルワークでサイズの実験を行ってまいります。次期成長のための新しい取り組みとして、近々発表させていただきますので、どうぞご期待ください。

SPAとしての足元が確立できたいま、新たな気持ちでチャレンジしてまいります。

このたび、初めて中間配当を実施させていただきました。1株当たり中間10円、期末で20円、年間で1株当たり30円への増配を予定しています。今後とも配当性向の向上を目指す所存です。また、7月には自己株式の取得も行いました。来期以降の中期経営計画は、立案している最中ですが、次期計画では売上高で700～800億円を目指す予定です。当中期経営計画によって足元整備ができたいま、新たな気持ちとともにコーポレートロゴも一新し、全社一丸となって事業を推進してまいります。

当社はこれからの発展を期待していただける企業であり、当社株式を現有の株主の皆様には長期保有を楽しみにしていただけるものと自負しております。株主の皆様におかれましてはどうぞ引き続きご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

連結決算の主なポイント

売上高	22,444 百万円	中間純利益	2,559 百万円	総資産	24,428 百万円
	前中間期比：29.0%増		前中間期比：41.2%増		前期末比：5.3%増
当中間期は35店舗の出店（内台湾1店舗）と既存店の改装効果などにより、売上高は引き続き好調に推移しました。ブランド別では、主力のローリーズファーム、グローバルワークに加え、ジーナシス、レイジブルー、ハレといったブランドが順調に規模拡大しております。		当中間期は、規模拡大による売上総利益率の向上に加え販売費及び一般管理費率の低下により経常利益率は20.5%と前中間期比1.4%アップしました。一方、19店舗の改装や3店舗の退店により、特別損失208百万円を計上いたしましたが、最終の中間純利益は、売上高の伸びを大きく上回り、増収増益となっております。		当中間期は、好調な営業成績に伴い、前期末比1,232百万円総資産が増加しました。主な変動項目としましては、出店による保証金数金の増加、自己株式の増加などが挙げられます。また経営効率を示す総資産当期純利益率（ROA）は、当中間期10.7%と前中間期比約1%アップしております。	

■ 積極的な新規出店を実施いたしました。 ■

shuca
GLOBAL WORK

シュカグローバルワーク

ラシック店



商業・文化が集まる名古屋の中心街として発展してきた「栄」。その大動脈である「久屋大通」と「大津通」を結ぶように出現した三越名古屋がプロデュースする新しいライフスタイルプレイス「ラシック」。大都市の中心市街地というロケーションでシュカグローバルワークのスタイルを提案する新しい試みとなります。

JEANASIS

ジーナシス

南堀江店



トレンドに敏感なショップが数多く建ち並び、関西のファッショントレンド発信地となっている大阪南堀江地区。そこにショップを構えるローリーズファームの1コーナーから独立し、ジーナシスの世界観をより鮮明にお客様へ伝えられるようになりました。路面店の顔となるファサードからデザインし、ブランドの存在感をさらに強めています。

RAGEBLUE

レイジブルー

浜松市野店



レイジブルー郊外立地の第1号店として、浜松市の北部に誕生した本格的なモール型ショッピングセンター（SC）、イオン浜松市野SCにグローバルワークとともに出店しました。ダウンタウンで支持されたレイジブルースタイルをより幅広いお客様へ提案する第一歩としてのチャレンジを始めます。

LOWRYS FARM

ローリーズファーム

池袋パルコ店



ローリーズファーム発祥の地である池袋パルコへ95番目のショップとして再登場しました。JR、地下鉄、東武線、西武線の巨大なターミナルである池袋駅に隣接した環境の下、毎日数多く訪れる幅広いお客様の多様なニーズにお応えしながら、ローリーズファームらしさを提案し、新たな基盤構築を目指します。

■ 増床・改装による既存店の活性化を推進いたしました。 ■

Before



After



ローリーズファーム南堀江店

既存店の活性化のために、増床・移転を含む改装を前期の25店舗に引き続き、当中間期も19店舗実施しました。その中心となっているのが、主力のローリーズファームです。ローリーズファームでは、ブランド力の維持向上のため2年前より改装に積極的に取り組んでおり、旧型店舗は残すところ13店舗となっております。これらの店舗も順次改装を行っていく予定で、来上期中には終了する見込みです。

店舗を取り巻く環境変化は、ますますスピードアップしており、当社としても出退店同様、店舗改装においても店舗政策の重要課題と位置付け、積極的に取り組んでいく方針です。

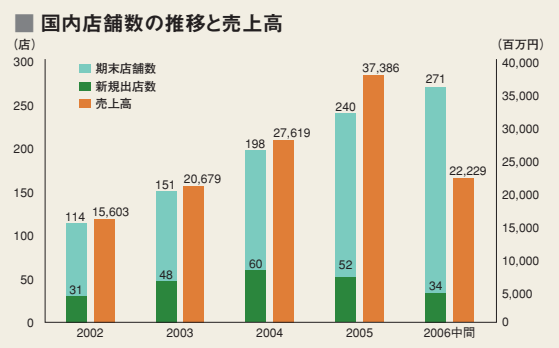
■ ブランド別改装店舗数

ローリーズファーム	16店舗
グローバルワーク	1店舗
ヘザー	2店舗
合計	19店舗

■ 積極的な出店と改装により、売上高は堅調に推移しています。 ■

当中間期におきましては、前述の改装の他、前期末比31店舗の純増により、売上高は、前中間期129%と堅調に推移しています。出店の主な内訳としましては、グローバルワークが12店舗、続いて第3の柱として力を入れているジーナシスが6店舗、主力のローリーズファームは4店舗となっています。またメンズ業態のレイジブルーは、初めて郊外のショッピングセンターに出店し、新しいロケーションでの実験的な展開も開始しました。

■ 国内店舗数の推移と売上高



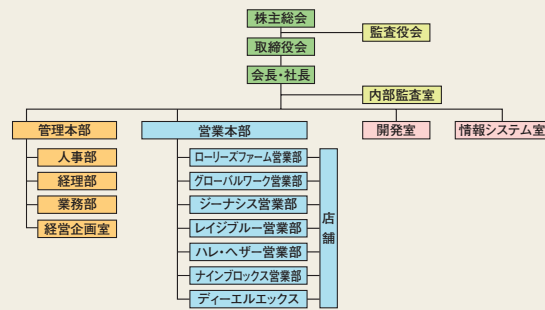
年次	期末店舗数 (店)	新規出店数 (店)	売上高 (百万円)
2002	114	31	15,603
2003	151	48	20,679
2004	198	60	27,619
2005	240	52	37,386
2006中間	271	34	22,229

(百万円)

■ 期末店舗数
■ 新規出店数
■ 売上高

■ 執行役員制度導入および組織変更に関するお知らせ ■

本年6月に執行役員制度導入と、組織変更を行いました。これにより、取締役の責任のうち、業務執行責任を執行役員に委譲し、取締役は、本来の機能である全社経営意思決定および業務執行に対する監督機能をより的確に果たすこととしました。業務執行機能と監督機能を分離することで、経営責任の一層の明確化とより迅速な意思決定の実現を図ってまいります。



■ 2006年2月期の中間配当実施に関するお知らせ ■

当社は、これまで配当を中間期には実施せずに、期末のみとしておりましたが、年間を通じて、安定した収益が確保できる企業体質になりつつあること、また中長期的視野に立った業績予測および資金需要等をも総合的に勘案し、中間配当を当期（2006年2月期）より実施することといたします。

当期の中間配当金つきまは、普通配当を1株につき10円とさせていただきます。

なお、すでに公表している期末配当予想につきましては、20円に据え置きますので、年間配当につきまは、30円への増配を予定しております。

■ ファッションショーの実施 ■

8月24日、店長会議の開催に併せ、従業員満足（ES）向上施策の一環として、プロのモデルを起用した本格的なファッションショーを実施いたしました。この模様は、各ブランドのホームページで見ることができます。各従業員がプロのモデルによる着こなしを実際に目にする事で、自社ブランドへの理解が深まり、その上でお客様と接することは、顧客満足（CS）の向上にも繋がるものと考えております。

また、このファッションショーは、応募抽選により一般の方々にもご参加いただき、大変盛況でした。今後も「ES＝CS」の考えのもと、定期的に開催していく予定です。



Close Up

》ブランド戦略 新ブランド開発 少子高齢化に向けた取り組み

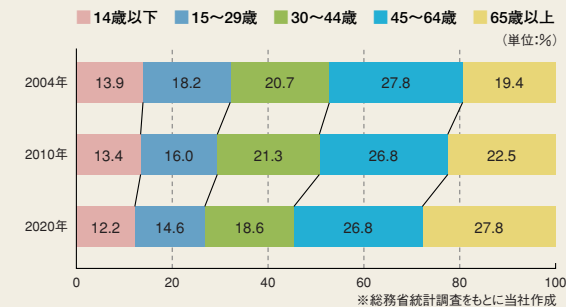
少子高齢化社会の到来に向けて、40代以上を主なターゲットとした新ブランドの研究チームを発足させ、出店に向けた検討を行っています。

》新ブランド開発の背景

40代以上の人口割合が高くなる、少子高齢化社会の到来が目前に迫っています。しかし、この世代にフィットする中間価格帯でファッション性の高いカジュアルブランドは、空白状態です。

そこで、「自分が着たいものを作る」という当社の基本姿勢に基づき、40代の社員が中心となり、同世代以上をターゲットとした新ブランド開発に取り掛かっています。

■ 日本の年齢別人口の変化



》開発の状況

デザインの方向性としては、1泊程度の小旅行にご夫婦で着ていただける、大人のカジュアルを目指しています。さらに、サイズもこの世代の方々にフィットするように、当下期よりグローバルワークの店舗でサイズ展開の実験を行っていきます。その結果を踏まえ、来春以降、郊外のショッピングモールを中心に出店を開始する予定です。

■ コーポレートロゴの変更について ■

1993年に社名を株式会社ポイントと変更した際、当時主流であったメンズカジュアル・ジーンズのイメージを基にコーポレートロゴを定めました。

しかし現在、主流の商品が変わり、またレディース商品の割合が中心になってきたことから、このたびコーポレートロゴを変更することにいたしました。

当社には個性豊かな人材がたくさんいます。そこで、「i」の「・」を従業員一人ひとりの個性と位置付け、自由な場所に表記できるユニークなものとし

ました。これを機に、新しいステージに向かって、さらなるチャレンジをしてみたいです。

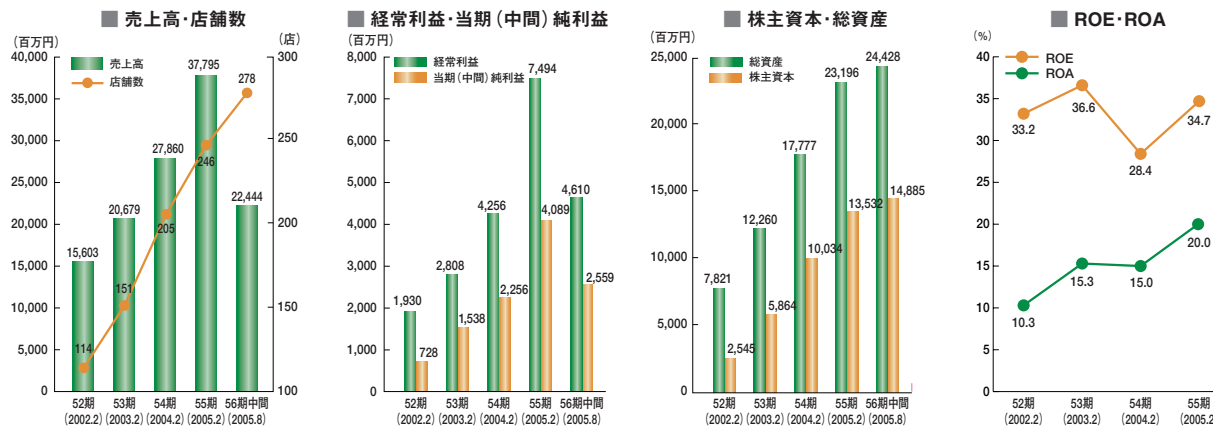
新コーポレートロゴ

point

5年間の業績推移(連結)

	52期 (2002年2月)	53期 (2003年2月)	54期 (2004年2月)	55期 (2005年2月)	56期(中間) (2005年8月)
売上高 (百万円)	15,603	20,679	27,860	37,795	22,444
経常利益 (百万円)	1,930	2,808	4,256	7,494	4,610
当期(中間)純利益 (百万円)	728	1,538	2,256	4,089	2,559
総資産 (百万円)	7,821	12,260	17,777	23,196	24,428
株主資本 (百万円)	2,545	5,864	10,034	13,532	14,885
店舗数 (店)	114	151	205	246	278
1株当たり当期(中間)純利益(円)	195.72	194.62	163.55	156.71	99.43
1株当たり株主資本(BPS) (円)	683.03	687.54	703.23	523.50	580.33
総資産当期純利益率(ROA) (%)	10.3	15.3	15.0	20.0	—
株主資本利益率(ROE) (%)	33.2	36.6	28.4	34.7	—

※2004年4月に1:1.2、2004年8月に1:1.5の株式分割を実施しております。



中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	期中間期 (2005年8月31日現在)	前期 (2005年2月28日現在)
◆資産の部		
流動資産	15,958	16,209
固定資産	8,469	6,986
有形固定資産	1,296	1,217
無形固定資産	103	94
投資その他の資産	7,068	5,673
資産合計	24,428	23,196
◆負債の部		
流動負債	8,761	8,830
固定負債	781	832
負債合計	9,543	9,663
◆資本の部		
資本金	2,660	2,614
資本剰余金	2,517	2,472
利益剰余金	10,993	9,022
株式等評価差額金	19	12
為替換算調整勘定	△0	△1
自己株式	△1,305	△588
資本合計	14,885	13,532
負債・資本合計	24,428	23,196

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期中間期 (2005年3月1日から 2005年8月31日まで)	前中間期 (2004年3月1日から 2004年8月31日まで)
売上高	22,444	17,396
売上原価	8,655	6,846
売上総利益	13,789	10,549
販売費及び一般管理費	9,177	7,219
営業利益	4,611	3,330
営業外収益	14	15
営業外費用	16	16
経常利益	4,610	3,328
特別利益	—	—
特別損失	208	163
税金等調整前中間純利益	4,401	3,165
法人税、住民税及び事業税	1,851	1,443
法人税等調整額	△9	△89
中間純利益	2,559	1,811

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期中間期 (2005年3月1日から 2005年8月31日まで)	前中間期 (2004年3月1日から 2004年8月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,807	1,799
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,651	△275
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,221	△366
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増加額	△1,066	1,156
現金及び現金同等物の期首残高	12,539	7,934
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,472	9,090

中間連結剰余金計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期中間期 (2005年3月1日から 2005年8月31日まで)	前中間期 (2004年3月1日から 2004年8月31日まで)
(資本剰余金の部)		
I 資本剰余金期首残高	2,472	2,304
II 資本剰余金増加高	45	58
増資による新株の発行	45	58
III 資本剰余金中間期末残高	2,517	2,363
(利益剰余金の部)		
I 利益剰余金期首残高	9,022	5,283
II 利益剰余金増加高	2,559	1,811
中間純利益	2,559	1,811
III 利益剰余金減少高	588	350
1. 配当金	514	283
2. 役員賞与	74	67
IV 利益剰余金中間期末残高	10,993	6,745

■ 会社概要

- 会社名 株式会社ポイント
- 本部 東京都中央区八重洲二丁目7番2号
八重洲三井ビルディング10階
- 代表電話 03-3243-6011
- 設立 1953年10月
- 資本金 2,660百万円
- 代表者 代表取締役社長 黒田 博
- 事業内容 カジュアルウェア専門店チェーン
- 事業所 水戸本店 東京本部
国内店舗数 271店舗
- 主要取引銀行 東京三菱銀行 常陽銀行
- 社員数 正社員743名 (男253/女490)
- 平均年齢 27.1歳

■ 連結対象子会社

株式会社ボジック

- 資本金 100万円
- 当社の議決権比率 100%
- 主な事業内容 当社取扱商品の物流業務
- 事業所 水戸物流センター、福岡物流センター

波茵特股份有限公司

- 資本金 100万台湾ドル
- 当社の議決権比率 100%
- 主な事業内容 台湾における衣料販売業務
- 事業所 台北本部 7店舗

■ エリア別各ブランド国内店舗数

(単位:店)

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	計
レイジブルー	3	4	3	4	1	3	18
グローバルワーク	11	27	14	12	3	13	80
ローリーズファーム	10	39	14	14	7	13	97
ジーナシス	3	13	2	6	2	2	28
ヘザー	2	8	2	5	1	4	22
ハレ	2	4	1	3	0	1	11
アグレア	0	0	1	0	0	0	1
ナインボックス	2	3	2	1	1	2	11
ディーエルエックス	0	0	1	0	1	1	3
計	33	98	40	45	16	39	271

■ 役員

- 代表取締役会長 福田 三千男
- 代表取締役社長 黒田 博
- 取締役常務執行役員営業本部長 石井 稔
- 取締役常務執行役員管理本部長 遠藤 洋一
- 取締役常務執行役員開発室担当 勝山 章
- 取締役執行役員情報システム室担当 時松 克治
- 取締役執行役員内部監査室担当 日野 力
- 取締役執行役員営業副本部長 櫻井 健一
- 監査役(常勤) 新名 宏志
- 監査役 横山 哲郎
- 監査役 前川 渡
- 監査役 高橋 惇
- 執行役員ローリーズファーム営業部長 上村 猛
- 執行役員グローバルワーク営業部長 松井 久
- 執行役員ジーナシス営業部長 内垣 幸一
- 執行役員レイジブルー営業部長 加藤 雅樹
- 執行役員ハレ・ヘザー営業部長 猿渡 稔
- 執行役員ナインボックス営業部長 渡辺 紀明
- 執行役員経理部長 富永 秀逸
- 執行役員業務部長 木間塚 一
- 執行役員経営企画室長 満木 大
- 執行役員情報システム室長 渡辺 裕幸
- 執行役員開発室長 五十嵐 俊弘
- 執行役員内部監査室長 坂 芳雄

■ 株式の状況

会社が発行する株式の総数 50,000,000株
発行済株式の総数 25,990,720株
株主数 2,682名

大株主(上位7名)

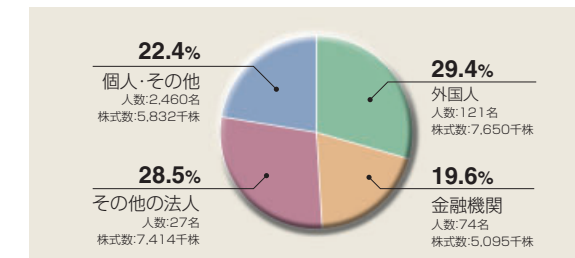
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社テツカンパニー	2,174	8.4
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,691	6.5
有限会社フクゾウ	1,510	5.8
有限会社武平	1,500	5.8
有限会社月岡	1,500	5.8
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,453	5.6
福田三千男	1,232	4.7

■ 株式分割の推移

年月は割当日ベース

2002年4月 1:2
2003年4月 1:1.5
2004年4月 1:1.2
2004年8月 1:1.5

■ 所有者別株式数分布状況



■ 株価・売買高の推移

